

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	富山型デイサービスあした天気になあれ		
○保護者評価実施期間	R 8 年 1 月 20 日	～	R 8 年 2 月 20 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13 名	(回答者数) 10 名
○従業者評価実施期間	R 8 年 1 月 20 日	～	R 8 年 2 月 20 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11 名	(回答者数) 10 名
○事業者向け自己評価表作成日	R 8 年 2 月 27 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1. 異世代交流ができる。	大きな疑似家族としての体験と完成を育むための支援をしている。 ①高齢者に経緯を払いきちんと挨拶をする。 (時には叱られ時には褒められている。) ②障害を持つ大人にも挨拶をして交流を持つ ③他校区の同世代の児童や地域児童(障害手帳を持たない)と共に遊びの交流を図っている。 (特に夏休みは多くの児童との関わりがある) ④昼食は他用の人と同じランチメニューを共に食べることを楽しむ支援している。(多忙な保護者の負担減を図ることができる)	安全第一で対応の充実を図る。
2	2. 住宅街、主要施設の近隣にある	駅や商店街、図書館が散歩コースで様々な経験や出会いを通して体験を支援している。 ①駅美術館の鑑賞、商店街で買物体験(自分で金銭管理をする) ②友達との外食体験と自身で支払う金銭管理の体験 ③図書館で本を借りて楽しむ	散歩や活動の祭は地域住民との交流を促しているが、更に充実を図る。
3	3. 田園風景の自然豊かな場所にあり、外活動(山や川で遊ぶ)ができるエリアが広い。	自然を感じながら、神社参拝したり広い敷地内でかくれんぼ等の遊び体験から身体機能の向上を図ったり異世代の交流を更に深める支援ができる。	長期休みは県内のテーマパークに行き家族ではない友人との遊びを体験しているが、各児童の特性に応じた場所の選択をして企画運営する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	1. 異世代の利用者と共生している。	高齢者や障害特性を持つ他者との軋轢 ①共同行動障害者には 児童の奇声や大声が悪影響をもたらすことがあり時に加害者、時に被害者となるリスクを抱えているため様々な環境設定や対応の工夫をしている。	現在は折合っているが、新たな利用者が増えた場合はその都度、当事者の個性に応じた、マニュアル化が難しい個々の支援を計画していく。
2			
3			